

江戸の園芸植物 蓮

東京大学農学生命科学研究科 技術職員
石川 祐聖

【講師プロフィール】

名前： 石川 祐聖（いしかわ ゆうせい）

所属： 東京大学農学生命科学研究科 技術職員

経歴： 2009 年より東京大学農学生命科学研究科附属緑地植物実験所にて
観賞用のハスである「花ハス」を始めとした緑化植物の栽培管理を担当。

2011 年より組織改編により同研究科附属生態調和農学機構に勤務。

継続して花ハスの栽培管理を担当。

約 300 種類の花ハスの栽培と開花に注目した生育調査を実施。

新品種の育成にも取り組み「緑地美人」と「月のほほえみ」の品種登録を担当。

花ハスに関する技術指導、セミナー講師として

「テレビ東京：緊急 SOS 池の水ぜんぶ抜く大作戦」

「植物園協会：江戸時代の園芸植物を未来へつなぐ～蓮編」などを担当。

2018年7月19日(木)

江戸の園芸植物 - 蓮 -

東京大学農学生命科学研究科
附属生態調和農学機構
技術職員 石川 祐聖

・生態調和農学機構の「花ハス」コレクション

生態調和農学機構では、観賞用のハスである「花ハス」の収集と保存を行っています。収集した品種は、江戸時代の文献に見られる伝統的な品種のほか、中国やベトナムなど海外から導入した品種があり300品種を超えるコレクションは国内でも有数の規模となっています。また、ハスの栽培に特化した施設が整備されており、教育・研究利用のほか6月～7月の開花期には一般公開も行っています。

・大賀蓮について

古ハスの研究で知られる大賀一郎博士を中心として1951(昭和26)年に千葉市旧検見川町にあった東京大学厚生農場(現 検見川総合運動場)において古い地層からハスの実を発掘する試みを実施されました。発掘によって3粒のハスの実が発見され、発芽試験の結果1粒が無事に生育し翌年の1952年に開花しました。発掘されたハスの実は、一緒に発掘された丸木舟の年代測定により約2000年前の実であると推定されています。開花した古ハスは、現在「大賀蓮」と呼ばれ国内だけでなく海外でも広く栽培されています。

・ハスとスイレンについて

ハスは、ハス科(*Nelumbonaceae*)ハス属に分類される大型の抽水植物で、熱帯東アジア・オーストラリア北部に分布する*Nelumbo nucifera*と北米東部・南米北部に分布する*Nelumbo lutea*の2種があります。通常、「ハス」と呼ばれるのは*N. nucifera*の方で花の色は紅色や白色をしています。*N. lutea*は、花の色が黄色で「キバナバス」と呼ばれています。

ハスとスイレンの類縁関係については、植物の形態に基づく分類であるエングラー体系においてハスはスイレン科に含まれていました。しかし、近年のDNA情報に基づく分類であるAPG分類体系においては、スイレン科ではなくハス科に分類されています。科の上位階級である目においてもハスはヤマモガシ目、スイレンはスイレン目に分類されており、ハスとスイレンは類縁関係の少ない植物とされています。

・江戸の蓮鑑賞 - 江戸名所花暦・江戸名所図会に見る蓮の名所 -

江戸時代は、園芸文化が大きく発展した時代です。当時の文献から江戸の人々が蓮を鑑賞する様子を知ることができます。現在も蓮の名所として知られる上野の「不忍池」のほか、赤坂の「溜池」や「増上寺」など現在では蓮を見ることのできない場所も当時は蓮の名所として知られていました。

四季折々の花鳥風月とその名所を紹介した「江戸名所花暦」には、上野の不忍池について「紅白の蓮華朝日に映ずる光景たとへん物なし」と紹介されています。

・名庭園に咲く蓮 – 松平定信の浴恩園 –

寛政の改革で知られる松平定信は、致仕した後「浴恩園」を造り蓮の収集を行ったことでも知られています。松平定信が完成させた蓮譜「清香譜」には、浴恩園に集められた 90 品種余りの蓮が記載されていたとされています。現在、清香譜の所在は明らかではありませんが、後の清香画譜や本草図譜などに転載され現在でもその内容を知ることができます。

・江戸の園芸書に学ぶ花蓮の育て方 – 貝原益軒の花譜 –

江戸時代に出版された園芸書「花譜」には、多くの園芸植物について育て方が書かれています。花蓮については、苗の植え方、種まきの方法、肥料や栽培上の注意点まで細かく書かれており当時の栽培方法について知ることができます。

・江戸の図譜に見る蓮品種 – 岩崎灌園の本草図譜 –

岩崎灌園の「本草図譜」は、全 95 冊からなり内 4 冊に蓮が記載されています。松平定信の清香譜からの引用が多いとされ、江戸時代の蓮品種について多数の図とともに紹介されています。

・花ハス鑑賞のポイント

ハスの花を觀賞する上で重要なポイントが 3 つあります。

1. 早朝に開き午後に閉じる

薄暗いうちから開き始め、正午前には閉じてしまうため花の觀賞は午前中に限られます。

2. 開花して 4 日目に散る

開花から 3 日間開閉を繰り返し 4 目に散ってしまうため、1 つの花としての寿命は長くありません。

3. 芳香がある

メントール系の入った甘い清涼感のある香を楽しむことができます。

鑑賞上、花ハスは以下のように分類されています。

[花の色]

- ・花弁全体が白色または紅色の「白蓮」・「紅蓮」
- ・紅色が花弁の先端に分布する「爪紅蓮」
- ・紅色が花弁の縁に斑状に分布する「斑蓮」
- ・花弁全体が黄色の「黄蓮」
- ・花弁全体が白色で花弁基部が黄色の「黄白蓮」
- ・花弁全体が紅色で花弁基部が黄色の「黄紅蓮」

[花の形]

- ・25 枚以下の「一重」、50 枚以上の「八重」、一重と八重の中間の「半八重」

[花の大きさ]

- ・直径 26cm 以上の「大型」、12cm 以上の「普通型」、12cm 以下の「小型」